

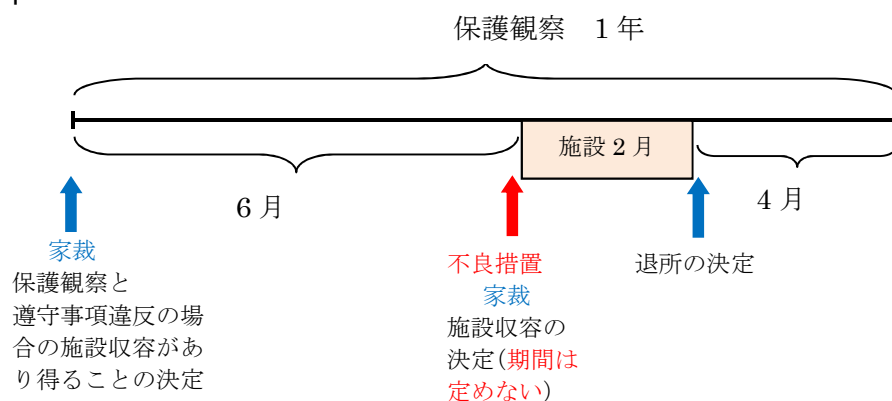


保護観察処分  不良措置としての施設収容 

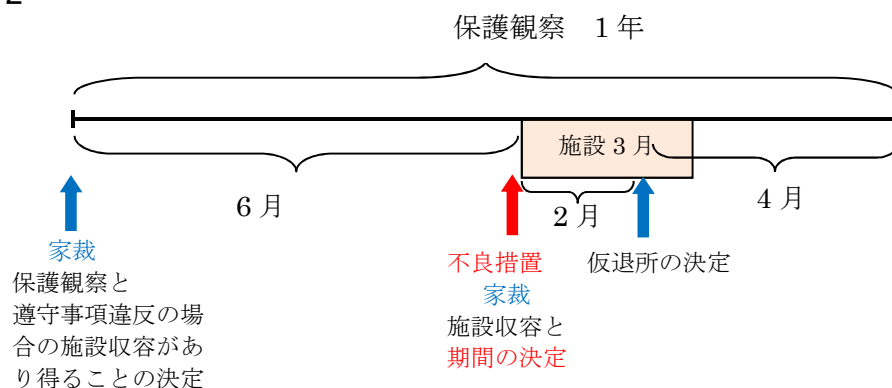
第1案 保護観察期間の範囲内でのみ施設収容が可能とし、施設収容があっても保護観察期間は停止しないとする方法

図1



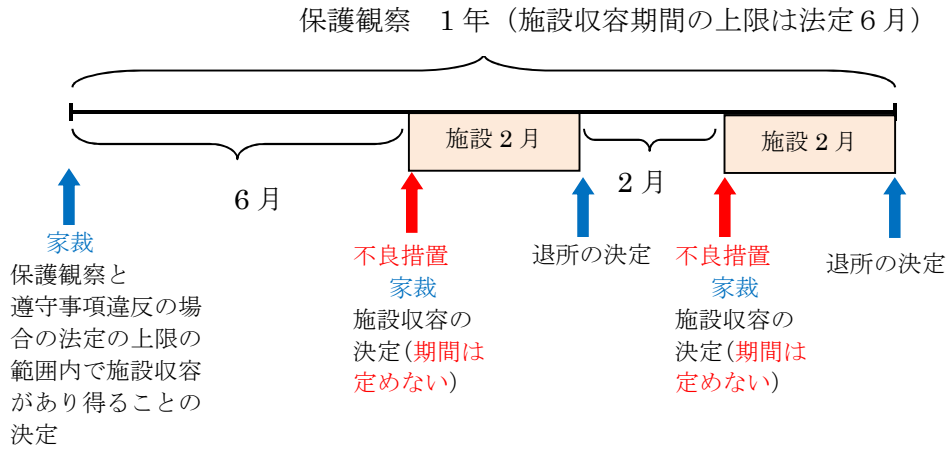
第2案 保護観察期間の範囲内でのみ施設収容が可能とし、施設収容を決定するときに具体的に期間を決定する方法

図2



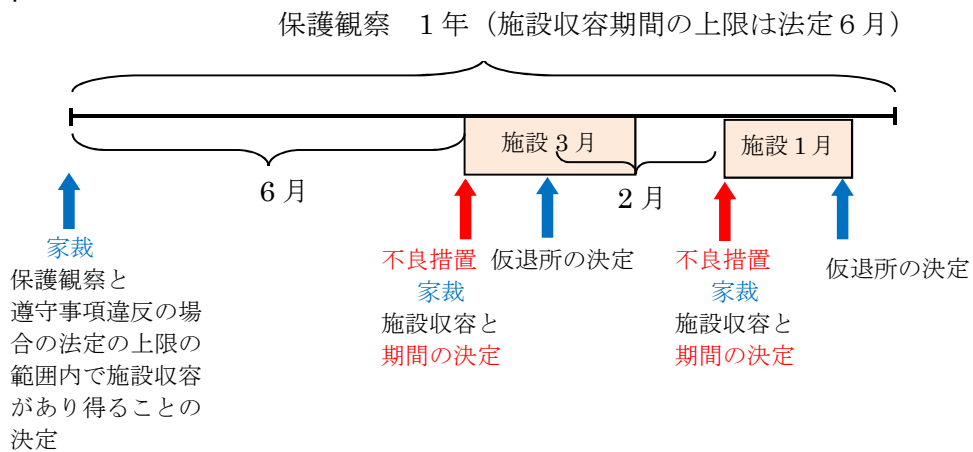
第3案 保護観察期間より短い施設収容の上限を法定しておき（例えば、6月）、その範囲内で施設収容を行う方法

図3



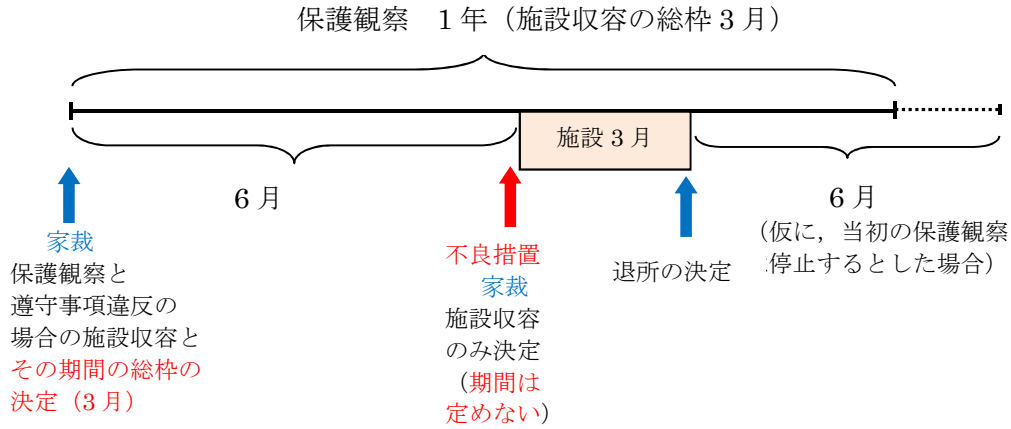
第4案 保護観察期間より短い施設収容の上限を法定しておき（例えば、6月）、施設収容を決定するときに具体的に期間を決定する方法

図4



第5案 当初の家裁決定で施設収容期間の総枠を決め、その範囲で施設収容を行う方法

図5



第6案 当初の家裁決定で施設収容期間の総枠を決め、不良措置の度に家裁が収容期間を決定する場合

図6 施設収容が1度きりの場合

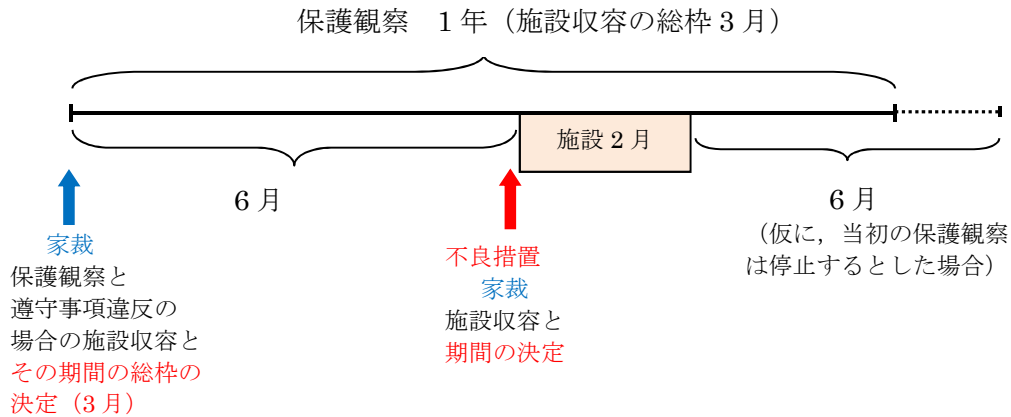


図7 再度の施設収容がある場合

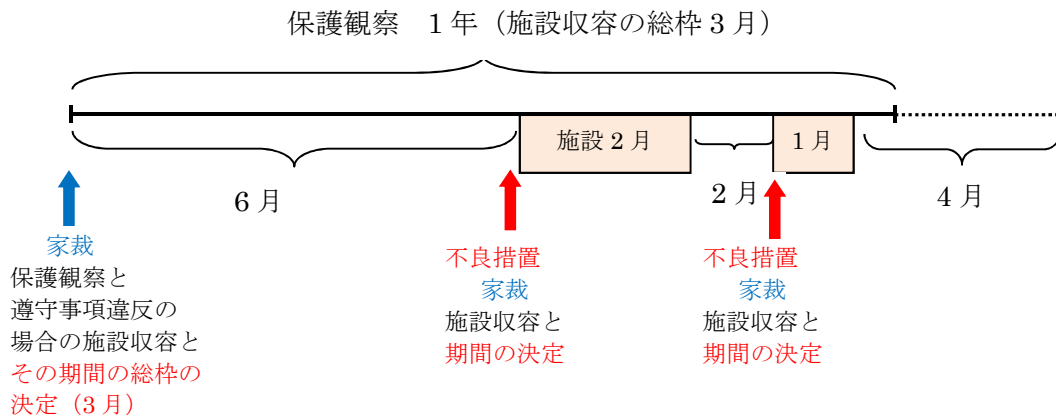


図8 施設収容の上限を定める場合の問題

